■健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻カリキュラムマップ

リハビリテーション学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

社会人としての一般教養、人間性や倫理性を身につけ、また保健・医療・福祉におけるヘルスケアを担う専門職としての知識と技術を身につけ、
卒業後に専門職として活躍できる実践力と自己研鑽するための研究能力を磨き、広く社会に貢献できる人。

(1) 人間性

1. 対象者ならびにその関係者に対し、個人の尊厳と基本的人権の尊重に基づき配慮し活動できる人間性と倫理感をもつことができる

(2) 専門性

2. 基礎的知識：基本的な医学的知識を用い、人体の構造・機能について説明できる
3. 専門的知識：一般臨床医学の知識を用いて、心身機能に関わる病因・疾病・障害について説明ができる
4. 応用的知識：基礎的・専門的知識を用いて、対象者の問題点、その原因を統合・解釈し必要な治療プログラムを立案する
5. 実践能力：それぞれの臨床実習ないで、評価、治療プログラムの立案、治療プログラムの実施を指導者のもと実践することができる

(3) 社会性

6. 専門職として求められる役割とその責任を自覚することができる

(4) 協調性

7. コミュニケーション力：様々な問題を抱える対象者ならび関係者の話を傾聴する。また、チーム医療をなす構成員の専門性を理解し、その意見を尊重しコミュニケーションを取ることができる
8. チーム医療：チーム医療の一員であり、他の専門職者と連携・協働しつつ、対象者の持つ医学的、社会的問題対する情報を共有し、目標を達成するため自分の役割と責任を担い行動できる

(5) 創造性

9. 論理的思考力：心身機能に関する基礎・専門知識とともに、社会的側面をも捉え包括的に対象者の問題を分析することができる
10. 問題解決能力：対象者の問題を分析、解釈をすすめ、医学的・社会的アプローチを立案し、実践することができる

(6)主体性

11. 自らの知識・技術・態度を評価し、絶えず自己研鑽をすることができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係（◎特に重要、○重要、△望ましい）										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	人体の構成要素としての細胞・組織学を理解する。さらに、個体の運動器系を構成する骨格系（骨格・靭帯）および筋系を中心に学び、人体の主要な骨格筋、骨や関節の特徴や構造を知り、作用を理解する。	1. 体の構成要素である細胞・組織学について説明できる。 2. 個体の運動器系を構成する骨格・靭帯・筋についての説明できる。	○	◎	○	○		○			△		
専門基礎科目	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰで学んだ筋骨格系を踏まえ、動きを指令する神経系や、動きを感知する感覚器系について理解する。また、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および嚥下や排泄を含めた消化器系などについても理解を深めていく。	1）内臓の構造と働き　2）脈管系の構造と分布 3）神経系の構造と分布・作用 4）感覚器系の構造と働きについて説明できる。	○	◎	○	○		○			△		
専門基礎科目	解剖学実習	リハビリテーションに必要な骨・関節・筋肉に関して、骨格標本と人体模型を使い、形態と構造および機能を確認する。	1）骨格および筋肉の部位について具体的な名称と身体における部位を説明できる。 2）主要な関節（肩・肘・手・股・膝・足）の関節構成体を確認し、各関節の解剖学的な特徴がいえる。 3）主要な関節における筋の走行を確認し、筋の起始・停止・神経支配・機能を暗唱できる。 4）体表解剖にて臨床に必要な身体指標の触診と、その名称を覚え説明できる。	◎	◎									◎
専門基礎科目	人体生理学	身体機能に関し、正常な機能とその仕組みについて理解を深める。基本単位となる細胞レベルから生体のいろいろな働きを分担する器官、さらにそれらが互いに協同し合う高度なシステムをなし、生命は維持されている。このように生理学の範囲は非常に広範であり階層をなす学問であり、生命維持活動における個々の役割を理解し、病態学・障害学との関連を理解する。	神経系の構造と機能について説明ができる。 運動器の構造と機能について説明ができる。 呼吸・循環の構造と機能が説明できる。 消化・吸収・排泄に関する器官の構造と機能が説明できる。		◎	○								
専門基礎科目	人体生理学実習	生体の生理機能に関し、実習を通して学ぶ。	運動時の生体反応を説明する事ができる。 神経系の解剖、生理について説明でき、神経伝導速度の測定理論が説明できる。 心電計を操作し、安静時の心電図を測定することができる。 スパイロを操作し、肺機能検査を実施することができる		◎	○								
専門基礎科目	運動学Ⅰ	身体における様々な運動や動作に関する基礎を学ぶ。解剖学や人体生理学で学んだ知識、特に四肢、体幹の構造および機能をはじめ、呼吸、循環、代謝、神経系、感覚器系の基本知識とも関連づけ、姿勢、運動、動作の分析・解釈へと結びつける。	1. 身体運動のメカニズムを力学の観点より説明できる。 2. 様々な姿勢、運動、動作を基本用語を用いて表現できる。		◎	○								○
専門基礎科目	運動学Ⅱ	解剖学・生理学・運動学Ⅰにて学んだ身体の基本的な構造と機能の知識を踏まえ、各機能と身体運動の結びつきについて、自ら考え、説明できることを目的とする. 臨床における各種疾患の運動・動作の理解へとつなげていく。	1. 解剖や運動学を基礎として、身体の運動に関する事象を多角的な視野で説明出来る. 2. 身体運動を担う筋骨格系の機能について学び、その機能と動作との結びつきについて考え、解剖学的・運動学的な用語を用いて説明できる.		◎	○			○				○	
専門基礎科目	人間発達学	人間を理解する基礎として、胎児期から老年期に至るまでの、身体的・精神的・社会的な発達を学び、それぞれのライフステージにおける特徴を体系的に理解する。	1.　発達の理論の諸説と各種発達検査を説明できる。 2.　粗大運動と手指の微細運動の発達について説明できる。3.　認知・知的・心理の面の発達について説明できる。	◎	○							△		

専門基礎科目	人間発達学演習	ライフステージごとの発達的視点をフィールドワーク、およびグループワークを通して、自ら情報収集し、他の学生と共有することで理解を深めることを目的とする。	1. 各ライフステージの発達的特徴を理解し説明することができる。 2. 発達検査について、目的および技術の理解と適切な解釈を説明し、実施することができる。 3. 幼児の発達的特徴を理解したうえで、遊びを思案し、提供することができる。 4. 幼児への接し方、興味関心の引き出し方など実際の経験をもとに適切に対応することができる。 5. 近年における社会環境の中で、子どもをとりまく環境について考察しまとめることができる。	△	○	◎	○		◎	◎		○	◎	○
専門基礎科目	臨床運動学	運動学やバイオメカニクスは人間の動作や運動を注意深く分析するうえで役立つ. 解剖学・生理学・運動学で学んだ内容を踏まえながら、動作や運動との関連性について考え、より臨床的な思考力を養う.	1. 運動学の視点から、臨床で良く目にする様々な疾患の事象、要因を説明できる. 2. 疾患に合わせた運動や現象を説明でき、訓練プラン作成における、根拠のある事象の機序を説明出来る.	△	○	◎	○		△	△		○	○	○
専門基礎科目	疾病と障害総論	基礎医学の中核にある病理学のなかで、リハビリテーション医療に関わる循環障害、炎症・感染症、免疫異常、代謝障害、遺伝や腫瘍について病因や病態の視点から疾病と障害の関連について学ぶ。 医学的リハビリテーションにおける病理志向的アプローチの基礎を学ぶとともに、内科学の対象となる各臓器の形態と役割ならびに機能を理解する。その基本を踏まえて、各種疾患の発生メカニズムを学び、それがどの様な症状や障害をもたらすかを理解する。	今後学ぶ各臨床医学教科における病態と障害の関連を理解するための基本的知識を学び、疾病や障害の病因や病態、治癒過程を理解し、これらの関連を病理学的視点から学び述べることができる		◎	○	○				△		△	△
専門基礎科目	臨床医学基礎論	リハビリテーションの対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で重要となる診断学、検査法、臨床薬理、栄養学、画像診断学、急変時の対応の基本を学ぶ。	1. リハビリテーション対象疾患に関する診断について説明することができる。 2. リハビリテーション対象疾患に関する臨床検査データ、画像について説明することができる。 3. リハビリテーション対象疾患に多く使用される薬の薬理効果・副作用について説明することができる。 4. 疾患特有の栄養指導について説明することができる。 5. 急変時の対応、処置について説明することができる。		○	◎	◎							
専門基礎科目	神経系障害とリハビリテーション	各種神経疾患の病態、症候と診断を学び、生活機能に影響する高次脳障害、運動感覚障害などを評価し、対応する治療計画や診療実践の理解を深める。患者や障害者の生活機能に影響するさまざまな症状（高次脳機能障害、運動感覚障害など）を評価し、対応する治療計画や診療実践の理解を深める。	1. 神経系障害の評価とリハビリテーションについて理解し、説明できる。 2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法について説明できる。	○	◎	◎	○						○	○
専門基礎科目	骨・関節障害とリハビリテーション	骨・関節の機能障害をもたらす外傷や疾患は、医学的リハビリテーションにおいて頻度の高い重要な位置を占め、四肢・体幹の外傷や疾患を担う整形外科学、診断学、治療法、さらに身体部位別に外傷と疾患、全身性疾患やスポーツ障害を学び、運動器リハビリテーションの理解を深める。運動器の疾病や外傷による機能障害の病態、診断、治療過程を理解し、リハビリテーションにおける機能・構造、活動と参加の評価と対応を修得する。	1. 運動器障害について病因、病態と症状について説明し機能評価ができる。 2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法について説明できる。	○	◎	◎	◎				△		○	○
専門基礎科目	内部障害とリハビリテーション	呼吸・循環・代謝の反応を運動生理学の観点から理解し、運動生理学的知識を基に、内部障害疾患の病態、障害、治療について学び、内部障害のリハビリテーションについて理解を深める。	呼吸、循環、腎臓、小腸、免疫、代謝系の生理学について説明する事ができる。病態理解のため必要は評価項目をあげる事ができる。一般的な運動療法の内容やADL指導上の留意点を説明することができる。	○	○	◎	○							
専門基礎科目	発達障害とリハビリテーション	胎児期からの人間の発達による変化を理解し、小児医療の視点から、年齢固有の疾患や症候について理解する。また、地域における障害児の生活像をイメージし、障害特性により起こりうる様々な生活上の課題を環境と関連づけて考えられるようになることを目的とする。	1. 発達に伴う身体・精神機能の変化および小児に多い各種疾患の概略を説明することができる。 1. 発達を考慮した診療計画を説明することができる。	○	◎	◎	○	△	○			△	△	
専門基礎科目	老年期障害とリハビリテーション	理学療法士や作業療法士にとって、高齢者を対象とすることの多いリハビリテーション医療の老化および老年病を理解することは重要である。障害の原因およびリハビリテーションを進める上での配慮事項などを理解する。	1. 老化に伴う身体・精神機能の変化および高齢者に多い各種疾患の概略を説明することができる。 2. 老化を考慮した診療計画を説明することができる。	○	◎	◎	○	△	○			△	△	

専門基礎科目	精神障害とリハビリテーション	精神障害の国際分類、代表的な精神障害の原因と症状、経過、予後などについて学び、身体療法とりわけ薬物療法、精神療法、社会療法などの各種治療法の概略を学習する。さらに精神科医療における法制度についても理解を深める。	1. 精神障害の種類、症状、経過、予後および治療法について患者に説明できる。 2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法について説明できる。			◎						○		
専門基礎科目	健康と臨床の心理学	リハビリテーション専門職として必要な知識として心理学の基本的事項を確認しながら、臨床心理学の概論として、歴史、精神医学との関係、その他治療過程で発生する可能性のある諸問題、心理的評価法や心理療法の諸技法について紹介する	1、心理学の基礎知識を理解し説明出来る。 2、臨床心理の基礎知識、アセスメント方法、介入方法について説明出来る		◎	○	△					◎	○	◎
専門基礎科目	リハビリテーションの理念と概要	リハビリテーションとは何か、その理念と心理社会的背景、医学モデル、国際障害分類、国際生活機能分類（ICF）、社会保障を理解する。疾病と障害、人間の発達と活動、高齢化に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化、リハビリテーションの意義と目的・役割、わが国の社会保障制度の変遷を理解する。	1. リハビリテーションの理念に基づいた保健、医療、福祉の在り方や思考の展開が説明できる。 2. いわゆる「リハビリテーション・マインド」を修得し、今後履修する講義や実習における基調にすることができる。	◎					◎	○	○	△		△
専門基礎科目	リハビリテーション実践	リハビリテーションの診療過程において、障害に関して病理診断学的あるいは機能障害学的アプローチの基礎理論を学び、リハビリテーション領域における特異的問題や主要な障害に対する医学的リハビリテーションを理解し、疾病や障害の機能回復のみならず、障害を有する者の生活機能やQOLの維持向上を目指す専門職としての基本を学ぶ。	1. QOLを目標とした包括的な視点から障害を評価し治療計画を立案することができる。2. チーム医療においてICFに基づいた病理志向的アプローチおよび機能志向的アプローチが実践できる。		◎	◎	○			△	△	○	○	○
専門基礎科目	地域包括ケアとリハビリテーション	住みなれた地域で、高齢者が有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、予防と、その前提としての住まい、生活支援と福祉サービスが連携しながら在宅の生活を支えるものである。作業療法士、理学療法士が、リハビリテーション専門職として、地域包括ケアシステムを支える一員となり行動出来るよう、背景や考え方、実施内容等、必要な知識を理解し地域での活動の在り方について学ぶ。	1. 介護保険について説明することができる。 2. 効果的な医療・介護サービスの提供と地域住民も参加した地域包括ケアシステムのあり方について説明することができる。 3. 高齢者の自立した生活活動の支援内容について説明することができる	○					◎	◎	◎	◎	○	○

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係（◎特に重要、○重要、△望ましい）										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
専門基礎科目L群	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	リハビリテーションにおける理学療法士の役割とその専門性について理解を深めていく。 見学実習を通し見学した症例の症状や障害像、治療に関する内容、面接、観察技術、施設の役割、医療チームの構成と連携に関し学ぶ。	1. 見学実習の課題成果をまとめ、発表することができる。 2. 症例報告・レポートの基本的な書き方ができる。 3.検査・測定結果から問題点につ言うての臨床推論過程を説明する事ができる	◎	○	○			◎	◎	◎	○	○	○
専門基礎科目L群	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	評価から統合解釈、治療計画立案までの理学療法の流れを修得するため、基本な知識や技術を統合する。	1. 評価から統合解釈、治療計画立案までの理学療法の流れを説明できる。 2. 評価や介入の意味や有用性に関し、再考し問題点の抽出、理学療法目標を設定し、対応した治療プログラムの立案、模擬患者に対する治療プログラムを実行することができる。	◎	○	○	○		◎	◎	◎	○	○	○
専門基礎科目L群	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	知識・技術関連性を理解し、EBPTをふまえ治療に関する考え方を学ぶ、また、汎用的に実践できる知識・技術に高める学修とする。	1. 評価・治療に関して根拠ある説明ができる。 2. 個人因子、環境因子を踏まえ対象者に対するアポローチを考え説明する事ができる。 3. 妥当性、正確性のある治療アプローチを説明し実施することができる。	◎	○	○	◎		◎	◎	◎	○	○	○
専門基幹科目A群	理学療法概論	自らが選択した専門職について理解を深めるため、理学療法の歴史的な流れ、実際の理学療法の流れ、理学療法技術、理学療法の領域や職業倫理など、理学療法に関する概要を理解する。	理学療法の流れ、その目的・意義を解説することができる。 理学療法に用いられる様々な技術について、一般的な目的や禁忌が説明できる。 理学療法士としての職業倫理について説明することができる。 EBM［科学的根拠に基づく医療（理学療法）］について、その手段および方法について説明することができる。	○					◎	△				
専門基幹科目A群	基礎理学療法	理学療法士を目指す学生としての動機づけを様々な視点より体験する。コミュニケーションスキル、プレゼンテーション能力、PCの基本操作および情報検索、文書やレポートの書き方などの基礎を、後期実施の見学実習に向け習得する。	1. 理学療法（士）の役割を理解し、さらなる興味や向学の志を高める。 2. 大学生として、理学療法士として必要な基本的なスキルや心構えを身につける。	◎	○				◎	△	△			○
専門基幹科目A群	理学療法研究法	基本的な研究方法や分析の手法、抄録の書き方や発表の仕方を学び、将来的な学会発表等が行える能力を養う。そして、理学療法学分野とそれに関連する学際的分野における研究の意義についての理解を深める	研究計画立案の流れを説明する事ができる。 必要な文献収集を行うことができる 研究計画を立案することができる。	○	○	○						○	◎	◎

専門基幹科目A群	理学療法研究法演習	研究実施にあたり必須となる統計学を学び、自分自身が行う研究に対して適切な統計手法を選択できるように例題を用い実際に統計の手順を学ぶ。あわせて、論文の書き方や発表技法を学ぶ。	1. データーから適切な統計手法を選択することができる。 2. 統計ソフトを利用し、データの分析ができる 3. 4年次の卒業研究につながる研究計画につてまとめ研究計画補の作成ができる										◎	◎
専門基幹科目A群	surface anatomy	これまでに学んだ、解剖学、解剖学実習の知識を実際に学生同士自らの身体を用いて触知、体表上に描くなどし理解を深める。	1. 体表上から触診した筋肉、骨、脈管、神経が何かその名称や起始停止等解剖学の内容を説明する事ができる 2. 検査・測定時の体表上の指標を正しく触診することができる。		◎	△								
専門基幹科目A群	理学療法管理学	職場管理において求められる管理業務の基本として職業倫理、組織運営とマネジメント、職場管理、理学療法業務のマネジメントや人材育成の観点から臨床実習を含めた育成に関し教育・研究のマネジメント、ざまざまな制度や、対象者の疾患・病期別の管理などについて学ぶ。	1. 理学療法部門の職場管理について説明する事ができる。 2. 教育・研究のマネジメンについて説明する事ができる。ト 3. 保健・医療・福祉を取り巻く諸制度について説明する事ができる。 4. 疾患別・病期別領域におけるマネジメントについて説明する事ができる。	◎					◎	◎	◎	○	◎	
専門基幹科目A群	理学療法評価学Ⅰ	病態とともに検査測定の結果の臨床的意義が理解でき疾病と障害の理解を深め、理学療法を進める思考過程での理学療法評価の位置づけを理解し、評価における目的、方法、意義、そして基本的な流れを学習する。	各種検査・測定の目的、意義を説明する事ができる。 医療面接、観察、関節可動域測定、徒手筋力測定、筋緊張、腱反射の目的を説明する事ができる。 関節可動域測定、徒手筋力測定、筋緊張、腱反射の測定（実技）が適切にできる。		○	○	○	◎						
専門基幹科目A群	理学療法評価学Ⅱ	主に神経系疾患の評価を行う際に必要となる代表的な検査・測定内容、情報収集の意味と具体的な方法論を学ぶ。同時に、それらの検査・測定の技術を正確かつ手早く実施できるよう実技練習を行っていく。	1. 様々なの検査・測定技術を学び、それらを適切に遂行できる。 2. 収集した様々な情報やデータを分析し、個々の状態像を統合・解釈できる。		◎	◎	○	△				○	○	△
専門基幹科目A群	画像診断学	医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、障害の理解のため単純X線撮影やCTなどの放射線を用いた検査法や超音波検査や磁気共鳴検査（MRI）といった画像検査があり、各検査によって得られた画像を通して正常な状態での解剖について2次元・3次元でイメージでき、画像の所見と障害部位について理解できるよう学修する。	1. 画像診断の原理について説明ができる 2. 脳血管障害の画像について説明する事ができる。 3. 中枢神経疾患の画像診断について説明する事ができる。 4. 脊椎・脊髄疾患の画像診断について説明する事ができる。 5. 上肢・下肢疾患の画像診断について説明する事ができる。		◎							○		
専門基幹科目A群	運動動作分析学	正常な身体運動の基礎知識と分析技術を確認するとともに、さらに多彩な運動や動作パターンの分析について、運動力学を常に想起しながら、主に基本動作を中心とした分析の手順を学ぶ。実習やビデオ観察により運動の具体的な記載法を練習し、異常動作の特徴や原因を理解する。	1. 運動や動作の観察と分析が適切にできる。 2. 専門用語を用いて、適切に運動や動作を表現できる。 3. 異常動作の特徴や原因を述べることができる。		◎	○	○	△						○
専門基幹科目A群	基礎運動療法学	解剖、生理学、運動学、病理学をもとに運動療法の理論を学び、関節可動域運動、筋増強運動、疼痛に関する運動療法の基本的技術を習得することを目的とする。あわせて、それらの運動療法を用いる疾患や障害像について理解を深め、運動療法の適応について理解する。	1. 運動器・神経系の構造と機能解剖について説明する事ができる。 2. 基本的な関節可動域運動を実施することができる。 3. 基本的な筋力増強運動を実施することができる。 4. 基本的な協調性訓練を実施することができる 5. 疼痛緩和のメカニズム治療について説明ができる。 6. 協調運動障害について、メカニズム治療について説明ができる。		○	○	◎	△				△		○
専門基幹科目A群	運動器系理学療法Ⅰ	運動器系疾患に対する知識の再確認と理学療法の基本的な治療方法などを講義や実技で理解を深めていく。	1. 疾患の特徴を理解したうえで運動器の理学療法について説明、実施できる。 2 疾患に求められる運動療法について、説明、実施できる			◎	◎		○				○	○
専門基幹科目A群	運動器系理学療法Ⅱ	運動器疾患の基本的な病態像を復習した上で、症例の病態に即した評価・治療について基本的な知識および技術を学ぶ。評価・治療の理解を深めるため、実技を通して評価方法や治療について経験する。 模擬患者を想定し、評価結果から統合と解釈を行い、問題点の抽出、治療プログラム立案について学ぶ。	1. 運動器疾患を解剖学、運動学の専門用語を用いて原因、病態を説明できる. 2. 運動器疾患に対する評価法を実際に実施することができる. 3. 評価で得られた情報をもとに訓練プログラムを立案することができる.	△	○	◎	◎		○	○	△	◎	◎	○

専門基幹科目A群	発達系理学療法学Ⅰ	ヒトの正常な発達を理解するために、小児期の疾病について理解する。疾病を持つ子の特徴的な発達を知り、それに対してどのような理学療法がなされるのかを理解する。そして原始反射等、正常発達の理解を深める。また、理学療法士の関与が多い小児疾患の病態・予後・合併症・二次障害について学ぶ。対象児がもつ知的・知覚・認知の障害や対象児の発達段階を踏まえ、ライフステージに合わせた理学療法過程について考察できるよう幅広い知見を身につける	1.　小児に関する代表的な疾患の発症機序を理解しその理学療法評価を説明することができる。 2.　小児に関する理学療法治療諸説の概念を理解し説明することができる。		◎	○					△			○
専門基幹科目A群	発達系理学療法学Ⅱ	脳性麻痺に対する理学療法評価と治療の基本的概念を学び、評価から治療までの一連の過程を理解します。	1. 脳性麻痺の障害像の変化、評価、治療につながる情報を集め自らの考えを発表することができる。2. 脳性麻痺児の基礎的なケアの仕方を身につける。			◎				○				○
専門基幹科目A群	神経系理学療法Ⅰ	中枢神経疾患、特に脳血管疾患の病態障害像を中心に理学療法評価の一連の流れを理解する。そして、評価の過程で行われる具体的な検査・測定項目について学び、それぞれの検査の目的や意義を理解した上で、症例の評価項目から統合解釈、問題点の抽出までの流れを学ぶ。	1)脳血管疾患の多彩な障害像を詳しく理解するとともに、代表的な障害・症状を列挙できる。 2)代表的な障害・症状と病巣(脳の機能局在、脳の血管)の関連を理解する。 3)脳血管疾患における理学療法評価の一連の流れを理解し、評価計画を立案できる。	○		◎						◎	△	
専門基幹科目A群	神経系理学療法学Ⅱ	中枢神経の構造と機能について、脳血管疾患が呈する病態と関連付けて学習することで、病態の理解を深める。理学療法評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ評価法について、脳血管疾患を対象とした場合の配慮点、特徴、実技を踏まえて測定方法や記載方法について理解を深める。また、急性期、回復期、維持期の病期別に必要な治療手技およびその選択理由について学ぶ。	1. 神経系の解剖や生理学の知識をもとに脳血管疾患の病態を理解し、病期に応じた基本的な理学療法(評価と治療)の選択ができる。 2. 脳血管障害に対する基本的な理学療法の実施ができる。		◎	◎	◎	○		○			○	○
専門基幹科目A群	神経系理学療法学Ⅲ	神経筋疾患の病態の知識を整理し、各病期ならびに病態に応じた理学療法評価や療法上の配慮点などを中心に学習する。また、必要な基本的徒手操作の実技を習得する。	神経筋疾患の基本的理学療法(評価と運動療法)を選択でき、脳血管疾患の理学療法を行う上で必要な基本的徒手操作法を実施できる。		◎	◎	◎	○					○	○
専門基幹科目A群	内部障害系理学療法学Ⅰ	呼吸・循環・代謝の機能的役割を確認し、呼吸器疾患、循環器系疾患と代謝疾患の病態、障害について理解する。	呼吸器の機能解剖と生理について説明できる。 循環器の機能解剖と生理について説明できる。 エネルギー代謝について説明できる。		○	◎	○					△	△	○
専門基幹科目A群	内部障害系理学療法学Ⅱ	内部障害系の運動療法を進める上で、診断学、治療・管理について学び、各疾患の病態の程度と可能な運動負荷やADL訓練について学び、安全性の高い運動処方のあり方を習得する。	内部障害の病態を理解した上で、安全で効果的な理学療法プログラムの作成ならびに実施次の適切なリスク管理ができる		○	◎	◎	○						○
専門基幹科目A群	高齢者・生活系理学療法学	高齢者の身体的特徴と心理特性を理解し、理学療法との関わりについて学ぶ。同時に、各自の「高齢者観」を再考しながら、高齢者の尊厳を意識した生活モデルに基づく理学療法士としての支援のあり方について考えていく。	1. 高齢者の身体的特徴と心理特性について説明できる。 2. 自らの高齢者観を提示できる。 3. 生活モデルに立脚した理学療法士としての支援のあり方を提示できる。	◎	◎	◎	○	△		○	○	○		△
専門基幹科目A群	義肢装具学	臨床でよく用いられている義肢・装具から、最新の義肢・装具まで紹介し、その機能、留意点を説明する。給付体系を知り急性期から回復期、地域リハまで義肢・装具を有効に利用するための知識を身につける。	1. 義肢・装具の種類とその特徴を説明できる。 2. 義肢・装具のアライメント不良について説明できる。 3. 補装具の給付体系を説明できる。		◎	○					△			
専門基幹科目A群	義肢装具学実習	義肢装具学の知識を基に、装具の調整をもとに適切な義肢・装具の利用について、臨床現場での必要最小限の調整・修理について学ぶ。	1. 装具製作過程を経験し、工具の使い方を身につけ、簡単な修理を行うことができる。 2. モジュラー型の義肢を調整することを通して、義肢の構成を図解することができる。		○	◎				○				
専門基幹科目A群	物理療法学	物理療法で用いられる温熱・電気・機械的な刺激が、生体内でどのような影響を及ぼすかを学ぶ。また各療法についての目的、効果や適応、禁忌を学習しながら、物理療法機器の構造や特性、使用手順、リスク管理などを理解する。	1. 物理的な刺激と生体内での反応について、生理学及び生化学的な観点より説明できる。 2. 各療法における定義、目的、効果や適応、禁忌を説明できる。	△	○	○	◎	△						△
専門基幹科目A群	物理療法学実習	物理療法機器の具体的な用法説明を対象者に行い、正しい使用手順に則って的確に実施できるように模擬治療などの実習を通して基礎的治療技術の修得を図る。	1. 物理療法各療法の禁忌と適応を説明することができる。 2. 代表的な物理療法を遂行できる。		○	○	◎	○	○				○	○
専門基幹科目A群	日常生活活動	日常生活活動(ADL)についてその基本的な概念を学び、移乗・整容・更衣・起居動作・入浴・排泄などの代表的な動作について学修する。代表的な疾病の生活像をつかみ、そのADL指導の内容について学ぶ。ADL評価について学び、実際の臨床場面での評価の実践に備える。基本的動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり・四つ這い・膝立ち)・トランスファーの各動作とその介助について学ぶ。	1).基本的なADLと手段的ADLの項目を区別できる 2)代表的評価尺度(BI、FIM)について実践できる 3)脳卒中・脊髄損傷・関節リウマチ・腰痛他の生活像とそのADL指導を説明できる 4)基本的動作と介助を説明できる	◎		○			○		○	○		

専門基幹科目A群	地域理学療法学Ⅰ	地域リハビリテーションの概念と歴史、さらに地域理学療法の位置づけについて学ぶ。また、地域で理学療法を展開する際に用いることが多い介護保険制度とサービス、介護予防について詳しく学ぶ。個別・グループ調査では、各地で実践されている地域リハビリテーションや介護予防事業について調査し、地域の社会資源の現状や理学療法士の役割について学ぶ。	1)介護保険制度の概要と、サービスを利用するまでの手続きが説明できる。2)介護保険で利用できるサービスについて、在宅（訪問系、通所系）・施設入所毎に、それぞれのサービス内容を説明できる。	◎		○			○		○	○		
専門基幹科目A群	地域理学療法学Ⅱ	地域で生活する人の事例や住宅改修例を通して、地域で暮らす対象者が主体的に生活できるように支援するための考え方について学ぶ。また、理学療法士は、今後、疾病の予防に寄与することが予想される。そのため、転倒予防、認知症予防、行動科学などのヘルスプロモーションの実践について学ぶ。地域で暮らす人の健康を維持するために何ができるかグループ学習などを行い、ヘルスプロモーションの重要性について学ぶ。	1. 訪問リハビリテーションの現状と課題について説明できる 2. 理学療法士が知っておくべき在宅医療知識が理解できる	◎		◎				○	○	○	○	○
専門基幹科目A群	理学療法総合特論	理学療法およびリハビリテーション医療に関する知識と技術を整理し、統合的な能力を培う機会であり、これまで学修した知識と技術について、基礎・臨床医学系領域を統合した知識・技術、推論過程をまなぶ。	1. 人体の構造と機能、疾病と障害学、基礎理学療法学領域における様々な問題に対し解説することが出来る。 2. 理学療法治療学における各領域に対する様々な問題に対し解説することが出来る。		○	○						○	○	◎
専門基幹科目A群	卒業研究	担当教員の指導の下で学生が興味をもった理学療法に関する研究テーマについて、研究活動を進める。その中で研究の信頼性、妥当性、エビデンスを確かめ、結果をまとめて口述発表・論文作成までの研究過程を経験する。	1. 理学療法の卒業研究の授業をもとに実証的研究（実験・調査・文献・事例研究）を実施することができる。 2. 研究成果の口述発表並びに論文作成を行なうことができる。	○	○	○						○	○	◎
専門基幹科目A群	世界における理学療法	様々な分野のグローバリゼーションが進む中で、国境を越えた理学療法士の活動はこれまで以上に質・量ともに拡大していくことが予測され、諸外国の医療および理学療法の現状と、諸外国の障害者の現状について学ぶ。さらに、海外での活動経験に関する講話を聴き、国際的な理学療法士の活動や日本の理学療法士に求められる支援のあり方について学ぶ。	1. 世界の理学療法の現状（概要と実践・教育）を理解する 2. 理学療法士の国際貢献の実際について理解する	◎							○	○		○
専門基幹科目A群	先端的理学療法の実践	日々多様化・高度先進化するリハビリテーション医療について、新しい医療技術や医療機器等臨床現場での実際を学ぶ。	1. 再生医療、ロボット、AI等を利用した医療内容と理学療法の関わりについて説明することができる。		◎								○	○
専門基幹科目A群	スポーツ理学療法学	理学療法の対象となるスポーツ外傷・障害について、スポーツ競技特性を踏まえた外傷・障害の評価、治療について理解する。そして、スポーツ現場における急性期対応に必要な知識と技術、選手の復帰に向けた理学療法の考え方と実際の治療、物理療法を用いた治療について学ぶ。	1. スポーツ競技特性を踏まえた外傷・障害の評価ができる。 2. 競技復帰をまえたアスレチックリハビリテーションの内容を立案実施することがd家いる治療	○	◎	◎							◎	○
専門基幹科目A群	予防理学療法	予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について医学的モデルとして、疾病や障害をもつ人への重度化の予防としての三次予防のみならず、将来的に疾患発症のリスクが高い人の早期発見・早期治療を行い発症予防への取り組み、老年症候群の発症予防・再発予防を含む身体活動としての介護予防や健康増進との関わりについて学ぶ。	1. フレイル、サルコペニアについて説明することができる。 2. 介護予防および健康増進に関し説明できる。 3. 予防リハ実施に必要な評価について実施できる。 4. 予防的観点に立ち運動処方することができる。	○	◎	◎							◎	○
専門基幹科目A群	理学療法士の社会活動	理学療法士は病院・施設のみならず、行政からの依頼、地域で開催される健康支援に関するイベントなど、社会の様々な場面で必要とされ、そのニーズに対応している。理学療法士の専門性を踏まえながら、、理学療法が社会の中で果たすべき役割を学ぶ。	1. 社会が求める理学療法士の役割について説明することができる。	◎							○		○	△
専門基幹科目C群	見学実習	リハビリテーションの実際の見学を通し、対象疾患を知り障害の概念を把握する。また、理学療法部門の位置づけ（他部門との関わり方）や臨床業務全般、組織（病院・施設）の運営について学び理学療法士の役割を体系的に理解する。コミュニケーション能力や専門職として求められる素地を養い、理学療法士になることの動機づけを高めることを目的とする。	1. 理学療法士の役割を説明する事ができる。 2. 良好な関係を構築できるよう、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 3. 理学療法の対象者の障害を説明する事ができる。 4. 対象者との信頼関係を形成することができる。 5. 理学療法士になることの動機づけを高めることができる。	◎	○				◎	○				◎

専門基幹科目A群	理学療法評価実習	疾患の臨床像をとらえ、対象者の評価に必要な検査・測定項目を実施し、その結果から対象者の病態・障害像について分析・解釈し、問題点をあげる。	1. 系統立てて問診し、評価に必要な検査・測定項目を列挙、優先性を決め実施することができる。 2. 検査・測定結果やその他の情報をもとに対象者の病態・障害について分析・解釈することができる。 3. 対象者の情報をもとにした統合・解釈から問題点を列挙することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	△		◎
専門基幹科目C群	理学療法実践実習Ⅰ	各臨床実習施設において8週間の総合実習を経験する。臨床の現場において検査・測定、記録、統合・解釈、理学療法プログラムの立案までの一連の過程を経験する。	1. 指導者の助言、指導のもと、検査・測定、記録、統合・解釈、理学療法プログラムの立案までの一連の過程を遂行できる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	◎
専門基礎科目C群	理学療法実践実習Ⅱ	基本的な理学療法の実践にむけ、問題点及び目標設定から優先性を考慮し理学療法プログラムを立案し、理学療法治療・指導計画に基づき、指導者の指導のもと基本的な理学療法を経験し、医学的側面だけでなく対象者を包括的にとらえることを目的に行われる。	1. 理学療法プログラムの立案、自らが立案した理学療法プログラムを臨床実習指導者のもと実施し、必要に応じ理学療法プログラムの変更ができる。 2. 記録・報告ができる。 3. 安全への配慮を行う事ができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基礎科目C群	地域理学療法実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける対象者支援を経験することにより、地域における対象者の生活支援のためのアセスメントや具体的支援のための方策について、地域における対象者を取り巻く多様な課題に関心をもち、理学療法の視点による援助方法の実際を学ぶ。	1. 生活支援のためのアセスメントの内容を提示し実施できる。 2. 具体的支援のための方策を示すことができる。	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○
専門基礎科目C群	救命救急法	医療の一環を担う職務に従事するものとして、救命救急処置法を熟知することは肝要である. さまざまな緊急事態とその原因、危険因子を挙げ、それらに迅速かつ確実に対応する救急処置法について学び、その技術を体得する.	1. 日常生活やスポーツ現場において起こりうる緊急事態や傷害について、理解し、説明できる 2. AEDを用い一次救命処置（BLS:Basic Life Support）ができる。 3. 傷病者の搬送および、巻軸帯や三角巾を用いて傷の手当ができる。 4. スポーツ現場での応急処置としてのRICE処置を説明でき、実施できる 5. 喀痰吸引について理解し、実施できる	○	○	○	◎	○	○	○	△		◎	○
専門基礎科目C群	地域生活と住環境	対象者の「参加」をテーマに、具体的な事例や自身の生まれ育った地域、住まいなどを題材に、対象者の住む地域および住環境について理解を深める.	①学生自身が生まれ育った地域の社会資源を列挙できる. ②学生自身の住まいについての環境評価ができる. ③障害モデルを想定し、大学キャンパス内の環境評価ができる.	○			◎		◎		○	◎	◎	○
専門基礎科目C群	災害リハビリテーション	災害時における、発災以降の経過を追い必要な援助ならびに医療専門職として二次的な障害を防止する手段などを学ぶ。様々な状況を設定し、障害を防止するために何ができるかグループ学習等を実施し学ぶ機会とする。	1. 災害時のリハビリテーションの役割を考える 2. 二次的障害の防止のための手段を間なう	◎	○	○	○		○	○	○	○	○	◎
専門基礎科目C群	実践教育方法論	教育方法論や教育原理に基づき、人材育成や患者教育、多職種教育などリハビリテーションに関する知識や実践移管する情報を伝えるための教育計画ならびにその実践の経験を積むことを目的とする。その中で、実践面で役に立つ知識・技術を修得し、指導のあり方（指導・支援上のコミュニケーション含）等について理解を深める。	1教育方法論を効果的なリハの実践に応用できる 2. 学生教育や対象者に適用できる指導の在り方を考えることができる	◎	△	△	△		◎	◎	◎	◎	◎	◎